

畫本西遊全傳 四編 十



2500
40-40



門遠
號 2500
卷 40-40

繪本西遊記四編卷之十

岳亭丘山譯

池

九九教完魔剋盡

三三行滿道歸根



觀音菩薩亦唐僧と守護する五方揭諦日值切曹六申
 六丁獲教伽藍の諸神と宣めい唐僧今年ゆでの苦辛路
 上魔小遭難を受へ更其教幾個とぞと問給へむ揭諦
 們的諸神是を件一小奏上を菩薩筆を採て遂一小寫
 一給へ首め金蟬長老の下界小畏らむとを第一難とす
 胎を出江小拗らむとす或は魔小遇妖小捉む火小焼む
 水小沈む小雷音寺火焰山亦七情女松林女子銅臺府
 小獄せらむ凌雲河小胎と換るまで幾個の難有くと盡く
 寫着し是を計給ふ小都て是八十度の難ありとす其菩薩是

繪本西遊記四編卷之十

つら
通天河
船入
三藏
九の難
全滅



通天河

一着畢つて曰く佛門の中九九真小飯まると云へ唐僧既小
 八十難を過むとも九九の教全からむ遠教を成人と為小亦
 更に一難を生じべし你等今より唐僧小赶上快く一難を與
 へ九九の教全うりしめよと命じ給ひけむの諸神遠上旨と領
 兼て乍ち雲小打駕て空中を走り漸々一昼夜を経て始り
 唐僧輩に追及掲諦暗小八大金剛の耳小口と着て這旨
 と細語るるに金剛打點頭忽ち雲を刷的扯取て三藏
 四衆白馬も俱小一齋小拗落しつる四個の九地小落さむ個
 個大の小鷲さ這抑奈何る度ぞや是我輩が走る事快き
 故小八大金剛女時歇ん為に我輩と地小下し給ふらん不
 知遠地の那止の處せん四方と遥小打探看小東小一道

の大河あり則ち向年氷の中小陥入し通天河の西岸あり
 四個直小河岸に走り出三藏徒等們小向ひ旧年這河の
 東岸小至り一時に你輩陳家庄小て妖精と降し他們小兒
 女を救ひ他們船を備て我輩を渡し亦僥倖小白龍あり
 我輩を渡しつるこの遠西岸の船を求むる處なり雲塵
 て是を渡るべしやと曰へ徒等輩商議を做て曰く師父既
 小九胎肉眼を離し給へ決て煎の如く水小陥入給へは是
 づ我輩個々雲を使得師父を駕て度るべし然れど日行者
 小筋斗雲の威を快くて師父未だ雲小駕慣ひ給へは是の部
 て危からん八戒沙僧が雲を一箇小合せく是小駕て師父
 を度まると已小準備を做るる處小忽ち水中小声有て

唐聖僧這辺へ来つと給へと呼ら者あり四個驚き是を看
む彼前年の白龜より岸の一邊小浮に出て頭を探り曰く
我這幾年老師父の回給ふ日を待たせり今日僥倖小
爰に来り給ふ快く我背小座て渡つとあへ行者笑く曰
く向年已小你老龜を芳くし今年亦再會して你を
芳くしむる事よとて四個惟喜笑ひつ馬を牽行李を取
彼ら背上小踏者二藏も徒者們も皆背上小駕りし彼の
白龜四足を開き水と踏平地を行ぐ如くみて女時の
間小東岸小近き忽ち頭を回して曰く前年師父若佛
を拜し給り我何の時人身を得たり是と問給んと曰
へつと今這事を尋ね来り給ひつとやと問はるば原末三藏

西天小て佛を拜せし時唯經を得ん竟小の心と湯と他
が事を問つたを不都小志と曾て是と尋ね今他小問
る小及んで首て心者返はつた言もろく唯頭を低く在
すは白龜則ち唐僧の是を問来りると悟り勿心ち心裡
を牛小撲的水底小沈とたり這時三藏九體小有さるば
慢小沈と給は徒者們驚き急小師父と水面小救ひ揚
白馬の原末龍の化身同く水上小跳り出經と衣服と盡
く水小濕ひくも個々東岸小登つと經包を開き水と
乾さんと做時亦一陣の狂風現的登り雷電天地と動
し石を飛し破と走り大雨車軸と轉と如し行者鉄棒
を輪し是陸魔這徑と奪んと為るるくと經を廻すと

守護一々の八戒を馬と牽住り三藏沙僧の經を按へ遂
小東岸より一夜を明し天明小及んと昏定し雨止り
を一邊なる石崖の上小到り經包を問きて日小乾し個々守
護して座居りて這故小今に到りて彼處小經を晒し石尚存
せりとうや當下快幾個の漢人河辺小出来りて都て
三藏師徒と認得這老師父の前年此處の難を救ひ
陳家莊小留住し西天小赴き給ひける聖僧なり我快
く陳家莊官小告知をへりて急ぎ跑りて故り這由を陳
家小報りたるは陳澄兄弟是を聞り物も取敢は幾個
の漢支佃戸們と隨帶て河岸小跑りて未だ二藏們と
會て禮拜し老師爺々意慮我家小未だ給はざりて這小

右して何とぞ做て居給ふ快く我家小未だ取給へりて只
官小拜請しるる小と二藏他們が誠心を感じ遠く経巻
を把收り陳家莊へ赴き給ひるる不期佛本行經石上
小沾ひ破れ幾巻を壞れ矢ひたり今に到りて本行經全
く晒せる石上小残りたり二藏は是と看て這我輩が
不徳の致し處なりと歎き給ひるるは行者笑て曰く天地
の間都て全うさむ今這経沾ひ壞て全うさるる由妙小應
じ人力の及ざる處なりと説話つ行小不爰時陳家小到
りて陳澄兄弟家裡的個々出迎へて正堂に請り入厚く
往時の因縁を謝りて懽喜する當下莊上の人家這由を聞
傳へ盡く未だ拜を亦万般の珍味を備て懇懇心小會



三徒と
経巻を
てと護
て在
風雷
雨と
ま

會六百九十九



會六百九十九

待々二藏師徒の西天ふて仙品仙肴を食してより全く
世の食を要はと雖も他輩々厚意を思ひ終ふ食
止ふると八戒も亦碗を把置我々意の故を知り脾胃
小弱しうとて遂小斎進を收せさせし世上の漢夫佃戸
們三藏四衆の徑を取帰し給ひ説話を聞我親く活
佛を拜を那ぞ這上の僥倖有んやとと個々隨喜感敷
且這地小長く住し我々が供養を受給へとて強て住め
ふぞ二藏他們が深志忍びく没奈何其日の滯留し給
ひより斯く其夜三更の頃小到り三藏悄悄々行者を呼這
地の人家已小我輩々切業成就せるを知古より真人の
相を露さばと云ふ斯る土地小久く在バ怕く大事を過

つ事有ん行者點頭て曰く師父の曰ふ處大い小理り我
輩半夜小悄悄々小忍び出る小如くして八戒沙僧と呼醒く
路小出るの準備を今做しバ八戒前と大い小同かれば急
起出這由を聞て是理りんと點頭て徑包を馬小駁せ
行李と擔ひ徑担を取行者解鎖の法を行ひ門を聞
一齋小稿出東に向ひて急ぐ所小忽ち空間小言有て逃
去の人快く我小跟ひ来つと給へと呼りたり是則ち八大金
剛より三藏師徒是を聞て懼喜急死亦祥雲小打駕
て一陣の香風を登り東小望んで飛去たり

徑回東土

五聖成真

話表八大金剛祥雲を繼ち香風を登り師徒四衆を送

して繞一日ふと東土小到つと已小長安小近着る時金
 剛指さして曰く此地既小大唐長安城なり我輩像と現
 を夏好むを師父雲と下つて行給へ徒弟們も從ひ行小
 及は唯聖僧一個經卷と帝小献つと後来り給へ我輩爰
 小在て待同、西天小還べへ行者及び八戒沙僧色と尉
 うして曰く師父意摩して經を挑ひ馬と牽給ふべし我輩
 俱小從ひ去べし方望の尊者女時待給へ八大金剛の曰く
 西天小於て觀世音菩薩八日の裡小往來し一藏の教小合
 びべと宣へし然る小今既小五日と經つる怕く八戒富貴
 を貪つて日限と過つ夏有ん八戒笑て曰く師父成位給
 べ我小亦成佛と望さるん今慢る小富貴を貪つて何

めのせん尊者心を安ん暫く爰小待せ給へとて八戒經
 を挑ひ汝僧馬と牽行者師父を扶け一刹小雲を下
 してけると原末那太宗皇帝貞觀十三年九月望前三日
 帝三藏小經を取来るべし昔と命給ひ城を出して西
 小送り其後十六年に工部官小命長安城の西小望して
 一圓の經樓を造り給ひ年々其地小行幸ありしが正
 小這日復御駕を廻し這樓上小御在りける處小勿心ち
 西方空中より香白風銀と霞の祥雲靄々と發露三藏師
 徒樓邊小下つと来り給へば太宗皇帝喜き喜き樓を下つて
 衆位の群官兩行排列し是を迎へ給へを三藏三個の徒等
 を領列雲と下つて地上小跪下て拜しけり太宗皇帝則ち禮を

受給ひ頓て近侍の官小勅三藏と馬小上せて大宗御駕
と廻り大家朝小還り入給ふ斯て朝中に到りたるは二藏
二個の徒茅葦と呼経巻と運せ盡く皇帝小献上亦関
文と取出し奉上一臣僧勅命小因て西天小到り仏と拜し
經と求め當下歸朝致し候ふ則ち經教二十五部通計五
千四十八卷蓋此教合一藏より大皇帝大い小惟喜給ひ
不期も朕大衆の真經と得人事と思ひ許す你と云ふ
つりして近侍官小命とて彼経巻を件一小收めあひ亦関文
を取て披き看給ひつるは上首寶象國烏雞國より連々小
車違國西梁女國祭賽國朱紫國比丘國滅法國亦鳳仙
郡玉華洲金平府寺の宝印を盡く列ねり大宗曰く西方

灵山中て行程幾個ありや二藏曰く都て是十萬八千里
と兼つと候ふ大宗曰く路上的極めて難為き方ありつらん
三藏則ち路上的的千万の艱難小遇し夏と落もや説話
西天大雷音寺めて佛と拜し首め無字の経巻と要め後
有字の経巻を得し夏亦靈山の光景を演其外行者八
戒沙僧們が出生と説他葦が助小因て庵を降し妖を伏
し功業成就し白馬が原身竜なる由を備細説話たり
大宗首め衆位の小近士官聞事毎小護嘆し頓て東閣と
聞て素建と設け二藏と請ふと大い小管待亦二個の徒茅
葦とも宣給ひつるを二藏告て曰く他們二個の原山野の
出生一向小唐朝の禮と知侍は万望は是と救給へ大宗



三藏法師
帰朝
供福
寺
入給ふ



古今圖書集成

曰く昔くかゝるに快く遠へ導引来るべしとて衆官小命とて行
者ら輩二個とも俱小東閣お請入同く宴を賜わつた
斯て天晚お及びむむの遂小宴を收め師徒四個君恩を謝
閣を辞し退た古の持住の寺洪福寺に入め小這洪福寺
に一樹の松有し上首三藏西大小赴くの時衆僧輩に誓て曰
く這松枝葉東小向ふ更有の我帰つて来るべしと云置り出
給ひたり其時の貞觀十三年望前二日なり今年貞觀二十
七年其間十四年を経て此程這松枝葉盡く東小向ひ
たり小ぞ儲の師父の帰つて給ふ成んと個々怪を在る處
小一日經を取僧帰つて給ひぬと告来る衆僧驚れ旦懼喜
急ぎ寺中を掃ひ旗幢を飭つて個々法衣を更めて門を出

て待たる處小大皇帝許妾の官士を差添て三藏師徒を
洪福寺に送り来る寺中の衆僧皆出て是を迎へ入個個
禮畢つて頓て齋を備へ来る三藏師徒終小是を吃く
終つたむむ寺中の衆僧三藏師徒の座前小充滿して天
竹一靈鷲山の光景亦路上妖怪小遇火小焼と水小溜
入万般の艱苦の支えと聴聞し深更小及んで奥室小寐
處を設け安寝味せと奏せたり三個の徒等這時既小道
果を得て十分隱和ふと一個も乱話嚷ぐ者なく
其れ大家洪福寺小宿したりと翌鳥三藏亦入朝して大
宗と拜しけむ帝曰く朕昨宵御弟の功廣大小を酬
謝し難きを思ひ幾々の俚談を綴りて推小旦謝意を

表あらわさるるつとて頻しばしばて中書官ちゆうしゆくわん小命せうめいどて是こゝを寫うつし給たまふ二藏にざう小
 與あへ給たまふ三藏さんざう是こゝを頂戴ちやうたいし讀畢よみまはして大おほい小こ権けん喜ぎ再また二頭にとうを
 叩たたて稱謝しやうしゃしつり其その文ぶんの今いまの世よ小こ傳でんふる聖教せいけうの序しよ則すなは是こゝを
 つと故ゆゑ小こ爰こゝ小こ畧りやく以もつて大宗たいしゆう亦また御ご牙がを鷹たか塔たつ寺じ小こ拉ひひ真經しんきやうを
 演說えんせつせしめて聽聞ちやうもんをせしと俄かた小こ鷹たか塔たつ寺じに行い奉ほうあり報樂ほうらく
 を奏そうし天蓋てんがいを捧たげ三藏さんざうの御ご駕が小こ從まひ二個にこゝの徒と才さい馬ばを
 率ひて師し父ふ小こ統ふさ遂つひ小こ鷹たか塔たつ寺じ小こ到たうつと給たまふ斯かて二藏にざう大宗たいしゆう
 小こ對たいひ主しゆ公こう真經しんきやうを天下てんか小こ傳でん流りゆう給たまふんと思おも召めひ當あたり鷹たか
 録りやく副ふ本ほんを以もつて天下てんか小こ布ふ散さん給たまひ原げん本ほんの深ふかく珍ちん藏ざう給たまふ
 ひ慢まん小こ輕けい褻せつ給たまふへかゞばと奏そうしけしとバ大宗たいしゆう是こゝを聞きて朕ちん
 能よ是こゝを守まもるべしと曰いはひつり斯かて三藏さんざうの大宗たいしゆうの命めい小こ從まひ

高たか堂だう小こ登のぼりて真經しんきやうを誦そ誦そせんとな為な給たまふ處ところ小こ忽たちち空中くうちゆう小こ
 香風かうふうを發はつ八大はつぱう金剛こんかう全身ぜんしんを現あらはせ高く叫こゑで曰いはく聖僧せいそう誦そ
 誦そと止とめて我輩われら小こ跟まひ快はやく西天さいてん小こ飯はんせ給たまふ正ただ小こ八日はつにちの日ひ
 と違ちがふを過あやまらむと呼よぶつり二藏にざう是こゝを聞きて乍さち經きやう
 卷まを放はな下くだ大宗たいしゆうを再また拜まがりて曰いはく臣僧しんそう今いま八日はつにちを限かぎつし靈れい
 山さん小こ歸かへるべしとの誓ちか言げんを做なましつり今いまより去さる佛ぶつ祖そ小こ見ま見ま候まうへと
 云いふし思おもへば勿なち心こゝろ小こ半はん空くう小こ飛と騰たうつとる臺たい下くだ小こ在あり三さん個こゝ
 の徒と才さい革かく白はく馬ばも俱とも小こ一いつ斎さい小こ座ざ空くう小こ騰たうつと祥雲しやううんを踏ふんで
 金剛こんかう小こ跟まひ大家たいか西方さいほう小こ向むかひて飛と去さるり大宗たいしゆうを首くびめ衆しゆう
 官くわん衆しゆう僧そう是こゝを看みて大おほ小こ驚おどろき口くち管くわん西さいの空くうを望のぞんで礼らい拜はい

遂に亦別高僧を擇んで鳳塔寺に於て水陸大會を
執行し大衆の真經を誦誦せしめ幽冥の業鬼を濟度し
亦翰林院中書科木の官に命じ教部の真經を騰寫し
遍く世界に布散させ給ひたり今世に到るまで三藏の
道德を載せ尊敬するの無き者却て三藏師徒の金剛と
俱に雲に駕西天に飛去るが果的往來八日の間不在
雷音寺に到りたる當下如來諸位の佛祖諸菩薩諸
神等を盡く宣聚め大雄殿上を排列せしめ三藏輩四個
を座前を呼出し個々職を授け給ひ日三藏と寶蓮
座近く宣給ひて曰ひたり聖僧你が前生の我二徒才金
蟬子有り你説法を聴け慢に大教を輕むるに依て你が

を與て東土に轉生せしむ今傍侍に我教に従ひ經を
取て東土に送て其功廣大なり因て用ひて你に大職を
加へ陞し旃檀功德佛と爲べしと曰ひたり三藏是を聞
て大いに懼ひ再拜して佛恩を謝し一邊へ退きたり如來
亦行者を座下に呼給ひ悟空你の五百年前大いなる天宮
を闢し吾法力を以て五行山下に壓在し居たりが侍に
今天火満ちて佛教に皈依し聖僧を守護し魔を拒
へ怪を降し大切有因て用ひて你に大職を加へ陞し
戰勝佛と爲べしと曰ひ亦八戒沙僧を呼給ひ猪悟能你
古蟠桃會上に在て酒に酔仙娥に戯れ曾大罪に因り下
界に墜らし身を畜類の腹に宿り福陵山に在て妖怪

とらむとも然れども倅僥小我汝門聖僧と保守く路の上
妖魔と戦ふの功あり然れども懶惰小く色情未だ
ざらぬもの担と挑ひ師父を助るの功亦捨難く你大職
を加へ淨檀使者と為べし八戒是を聞いて口裡小低
語て他輩都て佛と成念度我一個淨檀使者と做やと
云々ゆゑの如未曰く你原食腸實大ゆとこの大食を求む今
天下四大部洲我教小徒の者教をおぼ知は凡諸衆の佛
妻い養の時你檀を淨るの職小在あ供養の品後を受用
却て是好かいんやと亦汝僧小向ひ曰く悟淨ごじゆ你審しん挑會
上に玻璃蓋と碎くだき下界小照らあしし流汝河小怪あと成なる人
と吃くらむ然れども今我教小皈依あ聖僧と保守馬うまと牽我山小

未して經と取の助と做其功小因て你小大職を加へ淨して
金身羅漢と為べしと亦白馬を呼で曰く你原西洋大海廣
晋龍王の子ゆと父の命小逆さかひ不孝の罪ありと雖も今我
教小歸依あ聖僧と負我山小未と亦經卷きんをあ駄うて東土小
還かへり亦這小再またび来る這功德小因て你小職しやくを加へ淨して
八部天龍長者と為べし是を聞て師徒四衆大おほく小惟喜再
拜うやまつて頭あたまを叩たたて佛恩ぶつおんを謝あやまる如未亦揭諦小命いのちト白馬と
牽ひせ靈山の後屋うしろなる化竜池の中なか推入おしさせ給たまひる頭あたま更またの
問小白馬しろうま毛けと去皮むしをむきき身長み長く成頭上小角つのをと下身
中なか鱗うろこをむきき看みる一ひと條ぢうの金龍きんりゆうと成小なる揭諦金竜けつてきこんりゆうを宝
前小領あたま未とあ行者ぎやうじや當下あうげ三藏小向むかひて曰く我今われいま已小佛ぶつと

三藏
師徒
再入
雲龍
西天
天竺



成て師父と一般う這後緊縮呪を念て我を苦困給へ
 も有べらるに万望の緊縮呪を念へて緊縮呪を脱下し
 給へ三藏曰く昔觀音菩薩曾て我小這法を教て你を
 せむ今已小佛と成つ那ぞ再び緊縮呪を念て你を苦
 困んや日你快く頭と看よ緊縮一向小有竟る行者手
 を以て頭と撫て見小何の程小快く緊縮脱去し痕
 跡も無つとらば行者惟喜竟限る是よりして四衆皆
 一太厨小正果小歸し天竜も亦正果を得て諸佛諸菩薩
 と諸俱小排列を當下天華續紛とて降つと音樂四
 方小响さ度つと妙る竟云へく大衆皆合掌して這
 佛名と念て曰く

- | | |
|---------|-----------|
| 南無燃燈上古佛 | 南無藥師琉璃光王佛 |
| 南無釋迦牟尼佛 | 南無過去未現在佛 |
| 南無清淨喜佛 | 南無毘盧身佛 |
| 南無寶幢王佛 | 南無弥勒尊佛 |
| 南無阿彌陀佛 | 南無無量壽佛 |
| 南無接引歸真佛 | 南無金剛不壞佛 |
| 南無寶光佛 | 南無龍尊王佛 |
| 南無精進喜佛 | 南無寶月光佛 |
| 南無現無愚佛 | 南無婆留那佛 |
| 南無那羅延佛 | 南無功德華佛 |
| 南無功德佛 | 南無善游步佛 |

南無旃檀光佛
南無惠炬照佛
南無大慈光佛
南無賢善首佛
南無金華光佛
南無智慧勝佛
南無日月光佛
南無慧幢勝王佛
南無常光幢佛
南無法勝王佛
南無大慧力王佛

南無摩丘幢佛
南無海德光明佛
南無慈力王佛
南無廣莊嚴佛
南無方光明佛
南無世靜光佛
南無日月珠光佛
南無妙音聲佛
南無觀世燈佛
南無須弥光佛
南無金海光佛

南無大通光佛
南無旃檀功德佛
南無觀世音菩薩
南無文殊菩薩
南無清淨大海中菩薩
南無西天極樂諸菩薩
南無五百阿羅漢大菩薩
南無無邊無量法菩薩
南無淨壇使者菩薩
南無八部天龍廣力菩薩

南無才光佛
南無鬪戰勝佛
南無大勢至菩薩
南無普賢菩薩
南無蓮池海會佛菩薩
南無三千揭諦大菩薩
南無比丘夷塞尼菩薩
南無金剛大士聖菩薩
南無八寶金身羅漢菩薩

如是等一切世界諸佛願以此功德莊嚴佛淨土上報四

重因心下濟三途苦若有見聞者悉念普提心同生極樂
國盡報此

十方三世一切佛 諸尊菩薩摩訶薩 摩訶般若波羅密

油漬

繪本西遊記四編卷之十八尾

東牛島田
本貸本所
京池田屋清吉

題禹詩刪 全二冊 題禹詩選 全壹冊

美疑先生撰輯 書畫比白宜 小本二冊 廣用摺懷中本全部一冊

書家必用の小冊諸君子常小案上小備置ありて
其用奉て相をからん詩題面紙と始りて絶句
聯句ハ云も更あり數字は外半別冊小冊あり
其自在と得と云ふことキ實小書と號ふの君子
必携つ易の珍寶とも可謂小冊あり

書肆 大阪北久寶寺町心齋橋 河内屋源七郎梓

